



【学校教育ビジョン】
自ら学び、判断し、行動する金明っ子の育成
【めざす児童像】
よく考え、自分から動く子
・自ら学びに向かう子（「学びたい」「わかりたい」「できるようになりたい」という児童の学びへの意欲を支える。自律した学びを育てる。個別最適な学習と協働的な学びの一体的な充実を目指す）
・自分で考え行動する子（主体的に考え行動する場づくり。居心地のよい学校・学校づくり。生徒指導の4つの視点を生かした教育活動を推進する）
・たくましい子（挑戦する意欲、最後まで粘り強くやり抜く力を育む。自分の命を自分で守る意識と実践力を高める。健康や安全に対する意欲・知識・実践力を高める）

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童に学びを委ねる授業づくり	・自律した学びを目指して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。	研究主任	6年間を見通した「自律した学び」の共有により、児童は集中して学ぶ姿勢や自己選択の力を伸ばし、多様な仲間と学び合う姿が見られた。一方で、学びの広まりや深まりにつながる相手の選択や、SOSを出しにくい児童に対する支援が必要である。	【成果指標】 ・「学びの広がり」をみて、次の3項目の達成率を算出する。 A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 50%未満	自分でも学びのめあてを立て、取り組むことができた児童が A: 85%以上 B: 80%以上 C: 75%以上 D: 70%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査			
	基礎・基本の定着	・計算チャレンジで、計算力の定着を図る。	教務主任	児童は課題に真摯に取り組む、基礎・基本の定着が著実に図られている。今後は繰り返し練習を通して、さらに自信をもって活用できる力を育てていく必要がある。	【成果指標】 ・児童が計算の基礎・基本を身に付けている。	計算チャレンジ(1年2年は、計算3分プリント)の正答率80%を超える児童が A: 85%以上 B: 80%以上 C: 75%以上 D: 70%未満	計算チャレンジ・計算3分プリント(7月・12月)			
②生徒指導	居心地のよい学校・学校づくり	・児童の、児童による、児童のための学校づくりを推進する。	児童会	児童は授業に限らず、行事や特別活動にも主体的かつ意欲的に取り組んでいる。今後は、昨年度の実践を土台に、より創造的で自治的な学校づくりを児童自らが力強く進められるよう、教師は一つ引いて見守りつつ、的確に支援していく。	【満足度指標】 ・児童が「学校は楽しい」と感じている。	「学校は楽しい」と思う児童が A: 85%以上 B: 80%以上 C: 75%以上 D: 70%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査			
	いじめ・不登校問題への組織的な対応	・いじめ、不登校の問題に対して、組織的に対応し、未然防止・早期発見・早期対応及びその記録に努める。	生徒指導主事	児童は徹底的に着いて学校生活を送っているが、中には人間関係や学習に対して不安を感じ、多様な仲間と学び合う姿が見られなくなっている。今後は、特別活動や委員会、課外活動などを通して「人との関わり」を実感できる機会を大切に、自己有用感を高め、自信や次の目標につなげていけるよう支援していく。	【満足度指標】 ・児童が「学校生活が楽しい」と感じている。	アンケートや面談の実施が、諸問題の対応に役立っていると思える教職員が、11人中 A: 11人 B: 9~10人 C: 7~8人 D: 6人以下	1・2学期末に、教職員を対象にアンケート調査			
③キャリア教育・進路指導	自己肯定感・自己有用感の向上	・児童に感謝の気持ちを伝えるため、日々の活動や特別活動を通じて、個々の努力や成果を認め、励ます声かけを行う。	キャリア教育	日々の学校生活や行事において、自分の目標を達成しながら取り組む、達成感を振り返る姿が見られるようになってきた。今後は、特別活動や委員会、清掃などを通して「人の役に立つ喜び」を実感できる機会を大切に、自己有用感を高め、自信や次の目標につなげていけるよう支援していく。	【成果指標】 ・児童が「自分の役に立つ喜び」を実感している。	「誰かの役に立つ」と思う児童が A: 85%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査			
④保健管理	健康に対する意識・実践力の向上	・計画的な指導により、健康的な生活習慣を身に付け、健康に過ごすこととする意識・実践力の向上を図る。	保健主事 養護教諭	メディアのルールについて、学級での指導により正しい知識・技能を身に付けるとともに、自ら実践しようとする意識や態度を育てる必要がある。	【成果指標】 ・児童が自ら生活習慣を改善しようとしている。	メディアのルールの改善について、自分なりに考えて取り組むことができた児童が A: 85%以上 B: 75%以上 C: 65%以上 D: 65%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査			
	体力・運動能力の向上	・金明マラソンや1校1プランの取組により体力・運動能力の向上を図る。	体育	昨年度の体力テストでは、20mシャトルランの記録が県平均を上回る学年が多かったものの、記録や意欲の個人差は大きい。本校の伝統である金明マラソンを充実させることで、児童のさらなる体力向上を図りたい。	【成果指標】 ・20mシャトルランの記録が向上するように努めている。	20mシャトルランの記録が6月に比べて上がった児童が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	8月、11月に4年生以上の児童を対象に計画			
⑤安全指導	計画的な安全指導と避難訓練の実施	・どのような行動をとることが安全なのか、自ら考え行動できる力を高めるために、訓練の前に避難の際に必要な知識を伝え、訓練後に振り返る時間を設定する。	教頭	年間を通して、計画的に避難訓練を行っている。児童が自ら考え行動しようとする意識の向上を図るため、事前学習を取り入れてきた。自分の命は自分で守るという意識やそのために何が大切かという知識を身に付けるため、事前の安全学習は継続して行う必要がある。	【成果指標】 ・児童が、生活、交通、災害に関する様々な危険の要因や事故の防止について理解し、進んで安全な行動ができるよう努めている。	自分の命は自分で守ることができたと回答した児童が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査			
⑥特別支援教育	個に応じた支援の充実	・配慮が必要な児童についての情報、効果的な支援の在り方を共有し、個に応じた支援を行う。	特別支援教育 コーディネーター	定期的に校内支援委員会を開き、支援の方法を検討する。SC、巡回相談員、専門相談員などとの連携を強化し、継続して見守りながら支援を行う。また、支援の方法を共有していく。具体的な支援方法、教職員での研修を行う。	【成果指標】 ・SC、巡回相談員、専門相談員などから助言を受けていた支援内容や方法を支援委員会でも共有し、実施したことに対して児童の意欲が見られたと感じている。	支援内容や方法を支援委員会でも共有し、実施したことに対して児童の意欲が見られたと回答した教職員が10人中 A: 8人以上 B: 7人 C: 5~6人 D: 4人以下	1・2学期末に教職員を対象にアンケート調査			
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化	・効率的に業務にあたるために、部会や主任会の計画的な決定や放課後時間を確保する。	教頭	昨年度より日課の工夫による放課後時間の確保に努めてきた。学校研究や学校事務に携わる業務を行うことができた。今年度も放課後と連携し日課の工夫を行い、更なる業務の遂行に努める。	【成果指標】 ・月予定や年間予定を見直し、日課の工夫による放課後時間の確保等を生かして効率的に業務を遂行することができた。	月予定や年間予定を見直し、日課の工夫による放課後時間の確保等を生かして効率的に業務を遂行することができたと思える教職員が10人中 A: 8人以上 B: 7人 C: 5~6人 D: 4人以下	1・2学期末に教職員を対象にアンケート調査			
⑧研修	若手教員の育成	・日常的OJTを推進して、若手教員相互による学び合いを行う。	教頭	若手教員が4名おり、うち前期の教員が3名である。若手研修のリーダーを中心に日常的なOJTを進め、相互の学び合いや指導力の向上を図る。全教職員で育成のための指導・助言にあたる。	【成果指標】 ・指導から若手教員相互による学び合いや全教職員の指導・助言をすることができた。	日常的なOJTを推進して相互に学び合うことができたと思える教職員が10人中 A: 8人以上 B: 6人 C: 5~7人 D: 5人以下	1・2学期末に教職員を対象にアンケート調査			
⑨保護者、地域との連携	開かれた学校づくり	・学校と地域の要望を相互につなぐためにOSGとの連携を図る。	教頭	昨年度は授業サポートとしてまの先生を依頼して、教科や学年の広がりをもたせるために計画的にサポート依頼を行うと、開かれた学校づくりにおいてより効果的である。	【協力指標】 ・計画的に、必要に応じたまの先生の依頼に努めている。	必要に応じたまの先生の依頼に努めている教職員が9人中 A: 8人以上 B: 7人 C: 5~6人 D: 4人以下	1・2学期末に教職員を対象にアンケート調査			
⑩教育環境整備	児童の意欲を高める環境デザイン	・児童が学びの主体として成長できる環境づくりを進め、自己選択を尊重し、意欲的な学びを支える場作りを行う。	教務主任 研究主任	昨年度は、環境設定に努めたことと肯定的に回答した教師が100%であったが、すべての児童に効果的に機能していたとは言い切れない。児童一人ひとりの学びの意欲を高め、意欲的な学びを支える環境づくりを進め、安心して思考を表現できる人間関係や空間、見通しをたてた教材提示、多様な学び方を選べる柔軟な学習環境を通して進め、自ら学びを深める力を引き出す場を創出する。	【努力指標】 ・環境設定を進めることができた。	環境づくりに努めた教職員(机等の配置やヒントカード等)が9人中 A: 8人以上 B: 6~7人 C: 4~5人 D: 3人以下	1・2学期末に教職員を対象にアンケート調査			

学校関係者評価	
---------	--